

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1)

事業所番号	0172901548		
法人名	有限会社シャイニング		
事業所名	グループホームシャイニング		
所在地	旭川市永山1条11丁目2-39		
自己評価作成日	2021/08/22	評価結果市町村受理日	令和3年11月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [https://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_022\\_kihon=true&JgV\\_0syoCd=0172901548-00&ServiceCd=320](https://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JgV_0syoCd=0172901548-00&ServiceCd=320)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	企業組合グループ・ダイナミックス総合研究所 介保調査部		
所在地	札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号ハタナカビル1階		
訪問調査日	令和3年10月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

【力を入れている点】  
利用者様の状況に応じてモニタリングやミニ会議、社内研修をおこなっています。

【アピールしたい点】  
少人数の施設である為、ご家族様など、気軽に訪問して頂けるよう、明るく家庭的な雰囲気作りを心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、旭川市の北方面に位置する永山市街地にある平屋建て2ユニットのグループホームである。立地は、国道39号線沿いの中小路にあり、近隣には郊外型大型店舗が多数あり利便性の良い地区である。法人は、平成15年に設立し、翌年に当事業所を開設し、さらに翌年に隣接する1ユニットのグループホームを開設した。隣接したGHでは、デイサービス用の空きスペースがあり、市の健康体操の会場や職員の休憩場所、災害時の備蓄保管場所として活用されており、協力できる体制づくりをしている。また、「なんでも調査隊」という施設内研修の独自の取り組みを行い、一人ひとり職員が主体的に学べる機会を提供している。これからも認知症ケアの事業所として期待したい。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	<input type="radio"/>	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	<input type="radio"/>	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	課題が見つかった時、理念に基づき話し合い、理解を深める。新入社員には必ずオリエンテーションを行い理念についての説明をする。	事業所理念は、玄関や事務室などに掲示して、利用者やご家族に周知している。また、職員へは、年に1度職員会議にて、理念に基づいた個人目標をたててもらうことで、理念の共有をして実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議には町内会長、民生委員にも参加して頂き、地域のつながりを持つ。	運営推進会議は、隣接する事業所と同日に開催(時間をずらして)していたが、新型コロナウイルスの影響により、町内会長や民生委員などの参加予定者には書面や電話にて情報提供し、継続的に地域と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談に来られる地域の方に対し、管理者が認知症への対応、介護サービス利用に関することを情報提供する。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そのでの意見をサービス向上に活かしている	取り組みなどを報告、地域の情報交換を行っている。現在は、新型コロナウイルスの影響で「書面による開催」となっています。	新型コロナウイルス感染予防の観点から、運営推進会議は、書面開催としている。参加予定者には、議事録とは別に要望用紙を同封し、意見をいただくことでサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	解らないことを問い合わせて聞いている。生活保護の担当者とは常時連絡を取り合い、協力関係を持つようになっている。	主に加算や介護報酬改定に関する事について、市の担当者とやり取りしている。また、生活保護担当者とは、利用者の生活状況を伝えたりして、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を作り、毎月1回ユニット会議で話し合いをしている。また、身体拘束適正化委員会も設置しています。	身体拘束廃止委員会を設置し、ユニット会議と同日に委員会を開催している。また、日々の申し送りや社内研修を実施するなど、虐待防止を含めて周知徹底し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	ユニット会議と同日に身体拘束廃止委員会を開催しているが、検討内容の詳細を議事録に記録し、誰が見てもわかりやすい議事録の作成ができるよう期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修や外部研修で学ぶ機会を持ち、それぞれの立場での責務について理解を深めるなど。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見人制度を利用されている方がおり、日頃のケアや後見人との連携を通じ、学ぶ機会としています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	親切丁寧を念頭に解りやすい説明を心掛けている。不安や疑問点を尋ねやすい雰囲気作りを行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	必要な連絡を行うなど意見を伺う機会を作っている。窓口やマニュアルを用意し、運営推進会議ではご家族から意見を頂いている。	運営推進会議の書面郵送の際に、ご家族からの意見をいただいたり、来所時に聞き取り、その内容を担当職員へ伝えるなどして、運営反映させている。令和3年10月より感染予防を徹底し、直接面会ができるようしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットカンファレンス、職員会議での検討事項に時間を取り、職員の意見を聞く機会を設けている。	日々の業務の中で意見を聞いたり、月1回開催の職員会議にて意見や提案を聞くようにしている。個人面談は必要時に都度行っており、職員からの意見や提案を反映している。意見箱の設置を検討中。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年少しずつではあるが整備を進めている。各職員がそれぞれの個性を発揮して主体的に働けるよう、チームワークを重視している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の案内は回覧版で周知し、内容によっては個別に参加を促している。社内研修では「定期で疑問(ジャンル問わず)」を発表している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	代表者は同業者との交流もあり外部研修の案内は回覧版などで行っておりますが、あまり機会は作れておりません。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前からご本人の生活歴等アセスメントをとったり、事前に面談し入居後には困っていることはないか聞き安心して暮らせるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居契約前、契約時に家族と話し合う機会を作り希望・要望等を聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他の介護保険サービス利用は出来ませんが、医療往診サービス等説明をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介助や援助するだけでなく、ご本人の能力に応じた、家庭でしていたであろう家事等に参加してもらうよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診時や一時帰宅等を通じて交流の機会を作りご本人の普段の様子等連絡・相談の機会を作っています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お手紙や電話等で馴染みの関係が途絶えないようにしています。またスタッフとの深い関係ができるように努めています。	ご家族からのお手紙を頂いたり、友人・知人とは直接電話できるようにしている。また、時間や人数の制限はあるが、直接面会ができるようにして、関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールでの座る椅子等を考えて利用者同士が自然と会話ができるように配慮しています。また状況に応じスタッフが間にはいることで孤立しないように努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、サービス終了後も気軽に相談していただけるように努めています。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居後、ご本人の様子を観察し、生活履歴や生活習慣そして直接お話を聞き、希望・意向に添えるよう努めています。	利用者の日常の生活の中で、思いや意向を聞き取るなど把握するよう対応している。また、家族からも意向を聞き取り継続できることは対応している。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前アセスメントからご本人やご家族からの話を聞くことと担当ケアマネや相談員からの情報も得ています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各スタッフが状態観察等を話し合い状況把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族とスタッフが話し合いを持ち、何かあればその旨を定期的な検討会議だけではなく必要に応じて計画変更等に活かしています。	本人と家族の意向を元にモニタリングを行い、他職員とカンファレンスを実施し内容検討している。アセスメントは、利用者の状況に変化があった時に再アセスメントを行い、介護計画に反映するなど、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の状況を記録した「介護日誌」、申し送りノートを活用し個人の体調や心身の変化について検討し、必要時に介護計画を見直しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族と連携しながら柔軟な支援ができるよう取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の商店や自販機の買い物やまた、畑いじりや散歩等を行っています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	普段の状況を細かく記録し医師に報告しています。何かあれば医師と相談しています。	多くの利用者がかかりつけ医を往診の医師へ変更し、定期的に診療が受けられるようにしている。また、通院時は職員が同行して受診し、医療機関と連携して適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフが一週間の記録をまとめ、週1回の看護師と連携しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	お互いに情報等のやり取りを電話で行い隊員に関しての相談も行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	事業所で重度化に関する指針を作成し入居時にご本人またはご家族に説明をしています。	終末期の意思確認は、入居契約時に説明し同意を得ている。重度化した場合は、改めてご家族に意向を確認し、看取りに関する同意をいただき、かかりつけ医と看護師と連携してチームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故等はなかなか定期的には行えていません。今後は研修等で取り組みたいと思っています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を行い避難経路や誘導の仕方、消火器の使い方の確認を実施しています。運営推進会議にて災害の協力等について話し合いをしています。	火災の避難訓練は、日中夜間を想定して年2回定期的に実施している。内1回は、消防設備会社も参加協力している。備蓄管理をしており、昼夜問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけられるよう努めている。	BCPの作成をするとともに、BCPIに基づいた避難訓練及び備蓄の確認等ができ、全職員が災害対策に関する知識を身につけられる体制づくりを期待したい。
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人個人の人格を踏まえ、入浴・排泄時にはプライバシーに配慮した対応を行っています。	毎月開催の職員会議にて言葉使いやプライバシーについての指導を行ったり、マナー研修を通じて、利用者の人格の尊重とプライバシーに配慮したケアができるよう心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人がしたいこと等の希望や想いを普段の会話から引き出せるように心がけており、自己決定できるように働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望に沿って支援している	一人一人のペースを尊重し想いのままに過ごしていただけるように配慮しています。また活動を行う際も参加されるかどうか確認しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着たい衣服をご自身で選んでいただけるようにしています。散髪はご本人の希望を聞き、好みの髪形を楽しんでいただいています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本日の献立を見やすく大きく掲示しています。食事の様子などを記録して、美味しく食べやすい方法を考えています。	食材は週1回、それぞれの食材に応じたお店(肉屋や魚屋や八百屋など)の配達で、献立と調理は職員が担当している。行事食は、誕生日には利用者の食べたいものを提供しており、好みに応じた食事を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は個人に合わせて提供し、形態も個人に合わせています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入れ歯の洗浄、歯磨き等個人に合わせた口腔ケアをご自身でできるように支援しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	時間でトイレ誘導する等状況を見極めながらの支援に努めています。	利用者毎に排泄チェック表(排便表)を把握し、職員間で共有して、一人ひとりの仕草や表情を観察しながら、トイレでの自立した排泄の支援を行っている。立位保持が困難な利用者はベッド上でのオムツ交換をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握し水分量等の配慮を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	ご本人の希望も聞きながら入浴のタイミングを決めたり好みの湯の温度に調整し気持ちよくゆったり入浴していただくよう努めています。	入浴は週2回の提供を行っている。個々の利用者の状況に合わせて声掛けを変えたり、体調の変化に応じて曜日を変更するなど、臨機応変に対応することで、個々に沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝等休みたいときには休んでいただいています。また就寝時間もその方の想いに沿うようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診や往診時にはスタッフが立ち合い薬についての説明を受け処方箋づくりを見ながら内容を確認している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花壇・畑の世話や力量に応じ生活の中で役割を見つけ、また趣味嗜好もご本人との会話で探し楽しみを持っていただけるように工夫し対応しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族と連絡を取り合い、外出できるように支援しています。またスタッフと一緒に買い物等できるように努めています。	コロナウイルスの影響で遠方への外出については自粛しているが、季節を感じられるように敷地内や駐車場、近隣など外気浴や散歩をして支援している。感染状況が落ち着けば外出行事も検討している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人管理のお小遣いを用意し、買い物の際使えるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホームの電話や携帯電話を使って連絡されている方もいます。希望があれば対応しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間に限らず、スタッフが清掃し清潔を保っています。	共用空間は、2ユニットの各玄関が隣り合わせで、入ると三角形の大きなコーナーのリビングと食堂になっており、利用者がゆったりと寛いで過ごしている。天窓があり、陽ざしが良く、明るい感じで、壁には、行事の楽しい写真や季節ごとの飾りなどが施されており、居心地良く過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者が過ごしやすいようにホール内の長いの配置を変えたり工夫しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や寝具を使っていただいています。	居室には、大きな収納と電動ベッドが設置されている。利用者は、使い慣れた家具や馴染みの物を持参して、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ることを「役割」として状況に応じて行っただいただいています。		